

岸本葉子×中川恵一

日常の中の がん

最終回の話は、死生観について、です。

下 がんを教育に

中川 命に限りがあることを

考えさせるという意味では、がんもそんなに悪くないし、逆に幼少期からがんに対して教育することも意味があると思うんです。小学生から英語を教えるようになっていきますけれど、岸本さんのように仕事で英語を使いこなす必要のある日本人がどれだけいるか。
岸本 いえいえ、私は英語は苦手で、必要な時は通訳をお

願います。

中川 またまたご謙遜を。英語を使う比率とがんになる比率とを考えたら、がんのことを教えるべきだと思いますか。渡海文部科学大臣に会った時にも、そう言ったんですけれど、コイツは一体何を言うんだという顔をされました。縁起でもないし、先生が教えられないからダメだ、と。
岸本 母校で高校生相手に講

中川恵一

なかがわ・けいいち●1960年、東京都生まれ。東京大学卒業。同医学部附属病院緩和ケア診療部部長。毎日新聞朝刊にて『Dr.中川のがんを知る』を連載中。近著に『がんのひみつ』（朝日出版社）。

岸本葉子

きしもと・ようこ●1961年、神奈川県生まれ。東京大学卒業。保険会社に勤務した後、北京外国語学院に留学。旅や生活にまつわるエッセイストとして活動する。近著に『岸本葉子の根菜ごはんのすすめ』（昭文社）。



